

聖和学園短大 中村 恭子

1. 第4報まで、伊達家服飾遺品について、仙台市博物館所蔵の孔雀毛織陣羽織および伝伊達政宗所用服飾類の報告をおこなった。今回はひき続き同館所蔵、浄眼院・三代藩主伊達綱宗側室三沢氏初子（綱宗には正夫人がなく三沢氏初子が準夫人と称すべき存在で、四代綱村の生母）の服飾遺品帯十二条について紹介、報告したい。

2. 実物精査、文献諸資料および絵画資料による考察とくに光琳・雁金屋関係資料と浄眼院関係古文書による考察、同時代伝承の確実度の高いものと思われる染織資料との比較検討によって追究をこころみた。

3. 十二条の帯には他の浄眼院服飾遺品と共に正徳二年の入日記が附されているが、調査の結果によればはじめの状態のままのうふなもので、当時（浄眼院は明暦元年〔1655年〕側室となり貞享3年〔1686年〕歿している）の巾・丈のものである。そしてこれら遺品は当時服飾に行なわれた染、繻、かのこ、かき絵をうかがう事のできる確実な資料である。また渡来の染織品と思われる帯も三条あって十二条の帯はわが国の最高水準の染織品であった事が知られる。

これらは所伝のごとく浄眼院のものと思われる。